

分類の理論と応用に関する研究会会報

No. 1

JAPAN CLASSIFICATION SOCIETY NEWS

1983.11.15

発行 分類の理論と応用に関する研究会 Tel. 446-1501 銀行口座 - 三菱銀行広尾支店普通0134368
〒106 港区南麻布4-6-7 統計数理研究所同付 振込口座 - 東京8-83836番

会報発刊に当って 会長 林 知己夫
分類研究会が発足し、いよいよ会報を発刊することになった。学会でいろいろの刊行物が出版されるが会報ほどよく読まれるものはないであろう。学際的学会の学会誌は、すべてにわたって読まることは珍らしいことで、自分のしていることに関係深いところがよく読まれ、あとは reference の必要から繙くというのが普通のことと思う。学際的な学会の会報はこの点で特に大事な意味を持っていると言つてよい。会員の方々から「待たれる会報」になるように努めるつもりでいる。

この研究会の発足に当って International Federation of Classification Societies の設立と加盟のことについて言及した。この7月にフランスにおいて、各国の Classification Society の関係者が集つて Federation の設立について話し合ひが行われたようである。私も出席の積りであったが、止むを得ない事情のため欠席したが、ドイツの Bock からの手紙で、その様子を知つた。Federation は出来た模様であるが、その会則はこれから問題となつてゐる。アメリカ側の考え方と私どもの思つてゐる考え方とは食い違つてゐるようである。アメリカは Biometric Society のシステム（本部—アメリカと region, branch のシステムで成立している）の考え方方が抜け切れないと思われるし、我々は、各国の Classification Society の対等の連合体と言う風に理解しているわけで、今後の調整が重要なものとなつてゐる。Federation としての雑誌は合意に至らなかつたようで、これも今後の懸案事項である。国際的会合はなかなかうるさいものであるが、Federation が健全な形で発展するように毅然とした態度を持つつつ、柔軟に対応し、円満に事が済るようにしたいものと思っている。この点について、本会報に事情を書いてあるので、御読みいただき、我々のとるべき態度について、御意見があれば書いていただければ幸である。

これは、分類研究会と直接関係のないことであ

るが、学際的なものということが案外理解されていないことを知つた。いろいろの分野の人が集つてある公式的な会合でのことであるが、「学際的な学問」と言われるが、このことは実際よく解る。しかし、そうした学問は独自の Principle を持つてゐるのですか」と言う質問が出た。これには驚いてしまつて二の句がつづぬという感じであった。学際ということは、異った分野のものが集つて意見を交換する場という風に理解しているらしい。分類という理論や方法は学際的な分野であるのは当然で独自の考え方や方法を持ちながら開かれているものである。分類のための分類は空虚である。各分野のものとの共同研究のうちに、新しい方法が開発され、各分野はそれにより望ましい成果を手にすることになる。方法の方はそれにより自ら富んでくる。この方法がこれまでの分類の理論や方法の中でさらに深められ、一般化され、高度のものになり、これによってその開発の根となつた分野を離れて多くの分野に有用な考え方や方法を提供することが出来るようになる。他に利益を齎しつつ自らも富んでくるというのが学際的学問分野の特色であると考えている。こうして、これまでにない成果を夫々の分野で発展させて行くのである。こうした交流がこの研究会の使命であろう。

分類は、科学において最初に行うべき方法であると共に、最後に結末を付ける方法でもある。

（統計数理研究所所長）

設立発起人会および第1回総会議事録

昭和58年6月11日に研究会設立のための発起人会ならびに第1回総会が開かれました。これらの議事録の要約は以下のとおりです。なお詳しくは本号と同封の議事録をご覧下さい。

日 時 昭和58年6月11日(土) 14時～16時

場 所 統計数理研究所講堂

出席者 40名

設立発起人会議事録

1. 松田芳郎氏の開会挨拶に続き、矢島敬二氏を座長として選出した。
2. 発起人会に至るまでの経過報告が、林知己夫氏からなされた。主な事項は次のとおりである。
 - a) 米国分類学会の Carroll, Sokal および仏国分類学会の Jambu から、分類に関する国際的な連合体を作りたいとの呼びかけがあった。
 - b) こうした呼びかけに呼応するためにも、国内に関連組織を作る必要がある。
 - c) 以上を考慮して、とりあえず分類研究に関連のある研究者(60名)に対して、研究会設立のための検討会開催を呼びかけ、昭和57年11月19日に会を開くことができた。この設立検討会で議論の結果、会の設立準備を検討する設立検討小委員会(以下小委員会と呼ぶ)を設け、10名の委員により活動を始めた。
 - d) 小委員会では、会の名称の検討、設立趣意書(案)、会則(案)、発起人名簿(案)の作成、発起人会開催の準備等を行った。
 - e) 昭和58年7月に仏国で開かれる、分類学会・計量心理学会合同会議のおりに、連合体設立について各国の意見調整が図られる予定である。この会に対して、本発起人会での検討事項も含めて、我が国の現状説明をする予定である。
 3. 小委員会が作成した発起人名簿(案)についての説明が、大隅昇氏からなされた。
 4. 設立趣意書(案)についての説明が、加留部清氏からなされた。
 5. 会則(案)についての説明が、大隅昇氏からなされた。

以上の事項について質疑応答の結果、これらの案を一部訂正のうえ全員一致で採択した。

第1回総会議事録

1. 総会議長として矢島敬二氏を選出した。
2. 正会員をどう考えるか、その解釈と、運営委員の選出方法について討議がなされ、参加者を含めた発起人名簿への掲載者すべてをとりあえず正会員とし、同時に正会員全員を運営委員とすることを了承した。
3. 役員の任期について討議がなされ、第1期を昭和60年3月までとすることを決定した。

(ここで総会を運営委員会に切り替え、会則に従って役員の選出を行った。)

4. 会長・幹事長の選出について

上田尚一氏からこれまでの経過を考えて、会長として林知己夫氏、幹事長として矢島敬二氏を推選したい旨の案が出され、これを採決の結果全員一致で了承した。

5. 幹事の選出と承認

幹事長から、本会設立準備にあたった小委員会委員全員(林知己夫氏を除く)を、そのまま幹事として幹事会を発足させたいとの案が出され、これを全員一致で了承した。なお、選出された幹事は以下のとおりである。

岩坪秀一、上田尚一、大隅昇、加留部清、高橋伊久夫、松田芳郎、水野欽司、宮原英夫
(以上50音順)

6. 会計監事の選出と承認

会計監事として牧野都治、奥野忠一両氏が推選され、これを全員一致で承認した。

(再び総会に移り選出した役員の承認を行い、質疑応答を行った。)

7. 今後の活動方針についての説明がなされ、これを討議の結果承認した。

幹事会記録

第1回幹事会議事録

日 時 昭和58年8月11日(木)、16時～18時
場 所 統計数理研究所談話室

出席者 岩坪秀一、上田尚一、大隅昇、加留部清、高橋伊久夫、松田芳郎、宮原英夫、矢島敬二(以上50音順)

1. 発起人会および第1回総会議事録の確認をした。

2. 幹事会の役務分担について協議し、以下のように決定した。

〔幹事長〕矢島敬二、〔会報・会誌〕加留部清、高橋伊久夫、〔庶務・会計〕大隅昇、〔涉外〕松田芳郎、宮原英夫、水野欽司、〔シンポジウム〕岩坪秀一、上田尚一

3. 今後の研究会の活動方針について協議した。

a) 第1回シンポジウムを昭和58年12月15日(木)に開催する。

b) 会誌・会報の編集方針についての検討をした。

-
4. 昭和58年度予算の見通しについて討議した。
 5. 昭和58年7月7日に仏国で開催された、国際連合会設立のための代表者会議に関連した、各種資料をめぐって、種々検討をした。

第2回幹事会議事録

日 時 昭和58年9月17日(土), 11時~13時
場 所 統計数理研究所談話室

出席者 上田尚一, 加留部清, 大隅昇, 高橋伊久夫, 宮原英夫, 矢島敬二(以上50音順)

1. 国際連合会への日本側の対応について、関連資料をもとにして討議した。
2. 第1回シンポジウムにおける、講演者ならびにその内容等について検討した。
3. 会報の掲載内容についての討議をし、第1号を今年の11月中旬の発行を目安に作業を進めるとした。
4. 昭和58年度の暫定予算案についての説明が庶務担当幹事からあり、若干の調整の上これを承認した。

「分類の理論と応用に関する研究会」への期待調査に役立つ分類を 中西尚道

世論調査を行っている者として常々思うことは、調査の回答を分類することの難かしさである。分類が厳密すぎると、回答する人は自分の考えはいったいどこへ分類すればよいか困る場合がある。そこで、回答しやすい分類項目を設けると、それでは、あまり詳しい分析はできなくなってしまう。

調査結果を分析する一つの基準となる職業の分類にしてもそうである。世論調査や社会調査の場合の分類は、理論的に定義ができるのと同時に、調査の現場において容易に分類ができることが必要である。このような分類の設定を期待したい。

(NHK放送世論調査所)

方法論の標準化を

後藤昌司

このたびの本研究会の発足は主として計量生物学分野のデータを取り扱っている我々にも大きな喜びと期待感を与えてくれる。事実、このような分野では判別や分類といった問題に絡む事象をとり扱う場面は多く、データ解析の結果が臨床医や生物学者らの評価・批判を受け、彼らの研究に対し

て生産的な知見を提供する機会が生じる。したがって、本研究会では実地での適用例の発表機会を多くして、そこで直面した問題に対する議論および方法論の開発がとくに重視されることを期待したい。さらに、このような方法論の標準化を意図して、各種方法の優劣比較の研究が奨励され、プログラムなどの登録の場が用意されることも考えられる。また最近の文献の内容が時宜を得て会報などで(日本語で)紹介されることも会員にとって良い刺激と研究動機を提供するものと思われる。

(塩野義解析センター)

分類研究会の国際連合会について 矢島敬二

6月に行なわれた設立発起人会で林会長から説明があったように、国際的な連合会をつくろうという動きはかねてから連絡のあるところであったが、この点に関連して報告を行なっておきたい。なお、本号の会長挨拶にも関連の記述があるのでなるべく重複は避けるようとする。

分類研究会の代表者会議は本年7月7日、フランスのジュワイーアンージュザで開かれ、アメリカ、イギリス、西ドイツ、フランスから参加者7名があり、ほかに若干の臨時出席者があった。日本からは正式の参加者はなかった。

まず、連合会への参加可能性については上記4か国および日本を除いては、イタリアの統計学会の分類分科会があるとのことである。

現段階で実現可能なことは、2年に一度の国際的な会合を開くことではないか、ということになり、そのためには評議員会を各國2名の代表者によって構成することとした。この評議員会は連合会の規則の設定、各國研究会の正式参加の準備、第1回国際会議の準備を主要活動とし、第1回の時期としては1985年のイギリスのケンブリッジにおける計量心理学会の会合との共催はどうかということになった。以上が7月会合の概要である。

連合会の会則原案はアメリカ側でつくられているが、これの問題点については林会長が触れておられるので省略する。また、連合会の機関誌については問題があるので当面は出さないとボック氏の記録にある。これと関連しては、北米分類研究会が国際的な編集委員会よりなる雑誌をシュプリンガー社より出したいということで準備が進ん

であり、若干複雑な事態となっている。一方、10月4日から7日までフランスのベルサイユでINRIA主催のデータ解析の国際会議が開かれ、国際的な接触があるということで幹事会で基本方針を討議し、会長等が出席し説明を行なった。趣旨は、連合体の設立に賛成し、規則の討議を各国でなるべく早く行なえというものである。

フランス、イギリス、次いでアメリカに対しても同じメモを渡したので、そのメモ全文を載せておく、舌足らずの点があるが、会員の皆さまの御意見をうかがいたい次第である。12月15日のシンポジウムでもできれば報告討議をお願いしたい。

(日本科学技術研修所)

Memorandum

A committee of Japan Classification Society(JCS) had a meeting on Sept.17, 1983 and the International Federation problem was discussed. Approved items were the following.

1. The Founding Council should be recognized formally by the national societies without delay and Council is to start it's proper function to form the International Federation.
2. The proposed constitution of the International Federation of the Classification Societies should be discussed in each national society. There is a statement such as 'Each region shall be governed by Regional By-Laws approved by the Council.' (section I.4.). In JCS committee meeting it was agreed that it is not necessary to have the approval of the Council.
3. On the publication of international journal a committee agreed:
3.1 The North American Branch of Classification Society may have the right to publish a journal with international editorial board, even though it is not a proper time.
3.2 Other societies also have the same right.
3.3 A member of the JCS reserves the right to join to such boards and to subscribe the journal personally.
3.4 The JCS would concentrate its force to start national journal in Japanese.
3.5 The JCS will make an effort through the Council for publication of an official international journal.

事務局からのお願い

暫定予算案について

昭和58年度の暫定予算案を、幹事会で下記のように立案いたしましたので、ここにお知らせ致します。とりあえず、この案で活動を開始したいと考えております。よろしくご了解願います。

昭和58年度暫定予算(案)

科 目	取 入	支 出
会 費	556	印 刷 費 200
シ ン ポ ジ ュ ム 参 加 費	72	シ ン ポ ジ ュ ム 関 連 費 112
		事 務 費 90
		通 信 ・ 郵 送 費 132
		名 簿 管 理 費 70
		予 備 費 24
合 計	628	合 計 628

第1回シンポジウム開催のお知らせ

第1回シンポジウムを、開催することになりました。詳細は、本号と同封の案内をご覧下さい。

会費納入のお願い

会員の皆様で、入会金および会費を未納の方は同封の振替用紙にて、又は指定の銀行口座へすみやかに御入金願います。

新入会員勧誘のお願い

本研究会に関心のある方が身近におられましたら、入会をお誘い下さい。事務局までご連絡下されば、入会申込書等をお送りします。なお会費は正会員の場合、入会金2,000円、年会費2,000円です。賛助会員の場合、一口につき年会費30,000円となっております。